

予算額

28,590,693 円

## トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	12 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	4 団体	0 団体	5 団体	3 団体

トップアスリート総数	16 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	3 名	4 名	7 名	2 名

アシスタントコーチ総数	14 名
-------------	------

指導種目	チアダンス、ダブルダッチ、バレー、レスリング、サッカー、バレー、水泳、野球、トランポリン、体操
------	-------------------------------------------------

## ◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ 事業開始にあたって、巡回指導先となる学校・クラブ等の責任者に集まっていたき事前説明会を開催した。
- ・ 円滑な事業運営を図るため、当事業に関する書式等を作成し、説明会にて事前に渡した。
  - ・ 指導員・コーディネーター履歴書
  - ・ 誓約書
  - ・ 支払金口座振替依頼書
  - ・ 出勤簿
  - ・ 指導員勤務実績報告書(9月まで) ・従事時間確認簿(10月～)
  - ・ 実施報告書(巡回指導)
  - ・ トップアスリート等による巡回指導員設置要項
- ・ トップアスリート等について事前研修を行ない、受講した上で巡回指導に配置した。

## ◆成果と課題

## 〔成果〕

- ・ 総合型スポーツクラブの地域への定着に協力する事ができた。
- ・ トップアスリートの技術の高さと取り組む姿勢を多くの参加者に身近に触れさせることができた。特に学校の部活動への派遣は、未来を担う青少年育成の為には欠かせない、子どもへの直接的な啓発活動を実施する事は今後につながる大きなものだ。

## 〔課題〕

- ・ 学校内部の調整
- ・ 学校以外の施設確保がむずかしい(特にプール)

地域課題解決に向けた取組

	取組の名称	大泉スポーツまつり				
	趣旨・目的	「みる・する・支えるスポーツ」住民、来訪者による「にぎわい」を創出。各団体や競技種目からなるスポーツ体験場の提供・模範演技等、地域に性別や年齢を問わず参加可能な「祭り」のような賑わいの空間を創出させる。				
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①スタンプラリー</li> <li>②野球教室</li> <li>③体力測定</li> <li>④エキシビジョン(チアリーディング)</li> <li>⑤サッカー教室</li> </ul>				
	対象者	地域住民(幼児～高齢者)	参加人数/回	2400人	実施回数	1回
1	効果をもとめるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日頃、運動をしていない中高年をターゲットに、ポスター・チラシを町会や老人会に配布して募集した。</li> <li>・ 運動実技だけでなく、運動の必要性、栄養、休養を含め講義を開催した。</li> <li>・ 水中運動初日には体組成測定を行い、自分の状態を知ることにより、健康行動につながるようにした。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トップアスリートによる模範演技や子ども達の発表会等により参加者の増員を図り、「祭り」の様な賑わいの空間を創出し、活気ある街づくりに貢献。</li> <li>・ 練馬区レクリエーション協会の協力によるニュースタンプラリーを実施できた。</li> <li>・ トップアスリートによる実技指導により、子ども達の技術の向上と夢を与えた。</li> <li>・ 参加型イベントを開催することで、スポーツを楽しむ機会を創出し、生涯にわたりスポーツを持続する土台づくりを行った。</li> <li>・ スポーツを介して、社会参加が比較的困難な子育て世代と中高年齢者世代との出会いの場を提供し、新しいコミュニティ、新しい公共づくりに貢献。</li> </ul>				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催日が近隣町会や学校の行事と重なり、調整が難しい。</li> <li>・ 委託事業以後も継続するには、スポンサーやボランティアスタッフの確保が不可欠。文部科学省の冠が無くなっても、地域の理解が得られるどうか。</li> </ul>				

	取組の名称	大泉地区中学校軟式野球大会				
	趣旨・目的	中学校の野球部員、特にレギュラー外の部員をメインとしたチーム編成にて試合を行う大会。 ①怪我や病気等で、試合に出られなかった部員が多く出場の機会が少ない部員に自己アピールのチャンスをつくる。 ②部員の潜在的な能力を引き出す機会の創出。 ③対外試合を体験することで、次のステップアップを図る。 ④3年生部員の思いでづくりや後輩とのお別れ大会にする。 ⑤チームの裏方で頑張っている選手の労に報いる大会にする。				
	内容	学校・クラブ対抗の野球大会				
	対象者	大泉地区の中学生	参加人数	305人	実施回数	1回
2	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会の位置づけを高めるため、教育委員会や軟式野球連盟の後援をとった。審判も公式審判員に依頼、青少年育成委員会や地元町会や学校長とも連携協力して大会を進めていった</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会の回数を増やしたことで、レギュラー外の選手にアピールする機会を提供できた。</li> <li>練馬区教育委員会と練馬区軟式野球連盟の後援を得た大会で、開会式には練馬区大泉北区青少年育成会会長と大泉学園副校長にご挨拶をいただいたことから、大会に重みができ、選手や監督、コーチにも緊張感ある試合環境をつくることのできた。</li> <li>会場の準備で、隣接する小学校の野球部のチームの協力があり、大会がスムーズに進行できた。</li> <li>思いがけず、小中野球部の世話人さんの交流ができた。子ども達にとっても、地元の中学生の大会ということで、新たな目標となった。</li> </ul>				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場は2日間が限界で、7チーム以上の申込みがあるに対応できない。</li> <li>時期によっては様々な大会があり、大会日程だけでなく、チームが登録している連盟や協会の縛りもあり、新しい大会を企画してもクリアすべき課題が多い。</li> <li>顧問の先生の都合で引率ができず、参加できないチームがあった。</li> </ul>				

3	取組の名称	脳トレリフレッシュ				
	趣旨・目的	地域の元気の創出・生活習慣の改善				
	内容	水中運動				
	対象者	18歳以上	参加人数	45	実施回数	7回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣の中に運動を取り入れる事への重要性等について、参加者に対する理解促進を図るため、初日に体組成測定と講義を行い運動への意欲を高めた。</li> <li>町会、老人会等へ働きかけ、日頃、運動していない層に働きかけた</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>腰痛・膝痛の参加者が多く、水中運動を行うことによって改善されたとの声が多くあった。</li> <li>運動を継続的に行う事への効果について具体的に説明され、理解できた。</li> <li>水の特性と水中運動を行う時の生理的変化を理解させ、日常生活での活用方法を学習することができた。</li> <li>裸の付き合いによって、日常生活の中でも相談する仲間ができた。</li> </ul>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>プールが深いので、背の低い方にはフロアの上で歩いてもらったが、適正な深さではなかった。</li> <li>開催時間が夜だったので中高年者にとっては、午前中の方が参加しやすかったと思う。</li> <li>施設確保の難点がある。</li> </ul>					

4	取組の名称	脳トレリフレッシュ				
	趣旨・目的	地域の元気の創出・生活習慣の改善				
	内容	太極拳				
	対象者	18歳以上	参加人数	35	実施回数	6回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間日に「栄養と運動」についての講義をおこない、運動習慣が身につく方法と具体的な食材の捕り方等、健康への理解、知識を深めた。</li> <li>町会、老人会等へ働きかけ、日頃、運動していない層に働きかけた。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆったりした動きに呼吸法を取り入れ、日常の活動にも応用できるプログラムで分かりやすかった。</li> <li>中間に運動と栄養の関係を元アスリートの講師が講演し、直接的な啓発活動を実施することにより、運動と栄養のバランスの重要性が理解された。</li> </ul>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の運動器の機能、口腔機能、栄養状態の改善及び維持を図ることにより、要支援・要介護状態となる前から介護予防を推進するためには、本人の健康行動に対する意識をもっと時間をかけて支援していく必要がある。</li> </ul>					

## 小学校体育活動支援

派遣先学校総数	9 校
コーディネーター総数	20 名

### ◆効果を高めるための工夫や取組など

<ul style="list-style-type: none"><li>事業開始にあたって、巡回指導先となる学校・クラブ等の責任者に集まっていただき事前説明会を開催した。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>当事業に関する書式を事前に作成し、円滑な事業運営を図った。<ul style="list-style-type: none"><li>指導員・コーディネーター履歴書</li><li>誓約書</li><li>支払金口座振替依頼書</li><li>出勤簿</li><li>指導員勤務実績報告書(9月まで)・従事時間確認簿(10月～)</li><li>実施報告書(小学校体育活動コーディネーター)</li><li>小学校体育活動コーディネーター設置要項</li></ul></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>指導員・コーディネーターについて事前研修を行ない、受講した上で小学校体育活動支援に配置した。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>当事業以外の学校の依頼や要望に対して協力を行なった。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>事業評価を行なうためアンケート調査を行なった。</li></ul>

### ◆成果と課題

#### 〔成果〕

<ul style="list-style-type: none"><li>子どもが発達段階に応じて身に付けておくことが望ましい動きや、身体を操作する能力を獲得し、高めるための運動プログラムの模範をしめすことができた。習熟度別指導の実施。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>児童の運動量の増加につながった</li></ul>

#### 〔課題〕

<ul style="list-style-type: none"><li>学校内部の調整。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>打合せ時間の確保。</li></ul>

## 本事業全体の成果と課題

#### 〔成果〕

<ul style="list-style-type: none"><li>拠点クラブとして、主体的に学校の体育活動も含めた地域のスポーツ環境の形成を図り、地域と連携することができた。特に地域の学校との連携は大きい。教育支援体制は拠点クラブと学校とのパイプが大きな信頼関係として繋がった。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>地域課題として掲げた「練馬区の子供から大人の体力向上、維持増進のためのスポーツ習慣作りとトップアスリートによるスポーツ技術の伝達等」は地域の多くの人々を巻き込みいろいろな関係が生まれ地域の連携につながった。</li></ul>

#### 〔課題〕

<ul style="list-style-type: none"><li>一部の学校において本事業の主旨が理解されず(学校責任者と現場教師のコミュニケーション不足)実施が遅れたり、小規模になったため、更なる連携が必要。</li></ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------